

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901894		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのⅡ		
所在地	旭川市曙2条6丁目1番1号		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常の暮らしの中で、職員と入居者様が、共に楽しく笑い、心地良い生活を日々重ね、満足して頂ける支援を試みている。また、母体の法人や法人内のグループホームやメディアケアホーム等との連携・協働、手厚い医療面のバックアップにより、入居者様及びご家族様から安心・信頼感を得ながら、運営をしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901894&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901894&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当法人の運営主体は医療機関であり、訪問看護や訪問介護、デイケア、グループホーム、小規模多機能ホーム、メディアケアホームなどを開設しています。地域住民の方々をはじめ利用者・家族の幅広い要望に応えるため、法人内では様々な介護保険、生活支援サービス、施設が整備されています。グループホームあけぼのⅡは、家庭的な環境の中で安心感のある生活を維持しながら、利用者本位の自主的な生活をサポートしています。管理者は、職員全員と個人面談などで対話を重ねつつ、意見を尊重しながら、より良いケアに繋がられるよう努めています。職員は「意欲や態度」・「能力レベル」等を自己評価して、スキルアップを目指しています。また法人内の接遇委員会に係ったり、利用者の気持ちや力を活かした場面作りに努めています。家族からは職員の介護に対する積極的な姿勢に、感謝の言葉が多く寄せられています。看取り介護にも対応し、その人らしく安心して暮らせるサービスが提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を基に、ユニット独自の理念を設け、外出や散歩等で、行き交う人々との触れ合い作りに努めている	法人が掲げる二つの基本理念の意義を確認しながら、日々のケアに向けて努力しています。またユニットでは、職員間で話し合い、「外出の機会を増やす」など、独自のケア理念を掲げ、職員自らが目指すサービスの実践に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	中庭の畑作業時や散歩等で、近隣の方との触れ合いを持つ等で、地域の方々に顔を覚えて頂く等、日常的に交流している	町内会全体の加入戸数が極めて少ないなど、難しい環境下ではありますが、町内のゴミ拾いやホームの食事会、催し物などに招待するなど、今後検討しています。また機会を捉えて地域住民の方々へ情報を発信し、ネットワーク作りも目標にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的を開催している運営推進会議の中で、入居者様の暮らしぶりを紹介するなど、認知症の理解について啓蒙に努めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議においては、現状報告や意見交換等を行い、そこで出た意見を、サービス向上に繋げられるような取り組みを行っている	会議では、法人の新規事業や利用者の状況、活動内容などを報告しています。委員から出された意見や要望については、利用者が安心して暮らせるようサービスの向上に活かしています。また消防署の協力を得て、災害時の講話も行われています。	テーマの設定を工夫し、家族を含め多くの参加者のもと、様々な意見を出して頂き、運営推進会議が、より良く推進されるよう期待します。また家族に送付されている議事録は、報告の内容を記すなどして、ホームとしての具体的な方向性を示されるよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時や情報開示等の書類申請時や、認定調査の際に、相談等をしている	管理者はグループホームを適切に運営するため、市役所を毎月訪問し、関係部署との連携を図っています。また市職員により介護保険の利用状況や運営推進会議の係わり方の講話をして頂き、助言や指導を仰ぎながら、サービスの向上に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急止むを得ない場合を除き、身体拘束を行わない事が契約書に明記されており、身体拘束を行わないケアを実践している。また、身体拘束マニュアルを整備し、自由に閲覧出来る様にしている	利用契約書及び重要事項説明書に明記し、緊急やむを得ない場合には、身体拘束に関する同意書や記録するなど、利用開始前に家族に説明しています。また、接遇委員会の研修に参加することで、言葉による拘束に繋がらないよう、利用者への言葉使いに配慮しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の更衣介助や、入浴時等で全身状態の観察を行なっている。また、研修会の開催計画を策定し、学ぶ機会を持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する利用者はいないが、研修参加の機会を設ける等、学びの機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約内容について、口頭と文章で説明。入居者様及びご家族様と十分に話し合い、疑問点やご意見を伺い、理解や納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・ケアプラン変更時等の担当者会議において、入居者様やご家族様の意見や要望を聞く機会を設けており、ホームの活動やプラン等に反映させている	運営推進会議や来訪時などで、家族からの意見や要望が、出やすい雰囲気作りに心がけ、出された要望は連絡帳に記録し、ユニット間で話し合い、統一した対応ができるよう努めています。ホームでは今後、家族に誕生会や食事会への参加を勧め、意見交換の機会やサービスの実際に触れる場を計画しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているユニットミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営向上に反映させている。	管理者は、毎月のユニットミーティングで課題などについて話し合い、職員からの意見や提案を受け入れ、ケア理念に沿ってサービスの向上に反映させています。また職員と個人面談を行い、職員から出された工夫やアイデアを日々のケアや運営の中で発揮できるように、更なるスキルアップに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年行われるラダー評価に際し、個別面談を行うと共に、次年度の個人目標を設定し、その目標に向かって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	既存の職員にはラダー評価、新入職の職員については新入職員用のラダー評価を用いる事で、個々の力量について把握しやすいシステムを導入している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で開催されている、複数事業所による研修会への参加促進により、同業者とのネットワーク作りや、情報交換の場を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて、本人の要望等を開き、利用開始から暫定的なプランを作成し、安心できる環境になる様に努めている。また、利用後も本人の話を良く聞く事で信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や契約時に、ご家族様から不安や要望・意見等を聴取し、可能な限り対応する事により、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・関係機関からの情報により、必要とされる支援を見極め、様々なニーズに対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居者様の「出来る」部分に応じて、食器拭きや掃除等を手伝って頂き、「出来ない」部分については支援している。また、日常の会話を一緒に楽しみながら生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの暮らしや生活習慣等、ご家族様ならではの意見を大切に、家族と共に、本人を支えていけるような関係の構築に努めている		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が継続出来るように、入所前より通っている理容院や、お店等への外出支援等を行っている	家族からの情報や利用者との会話から、馴染みの場所などを把握しています。また家族の協力を得るなどし、関係が途切れないように支援しています。職員と喫茶店や買い物、理容院に出かけ、馴染みの人との会話を楽しむなど、利用者の希望に沿うよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、人間関係を配慮した席となるよう、位置を工夫している。また、その場の雰囲気に合わせて、職員が仲介する等で、孤立する入居者様が出来ないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居した入居者様に面会に行き、他施設職員より近況報告を受ける等、必要に応じたフォローを行っている				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人のメッセージを察知し、センター方式を使用し、本人・ご家族様からの希望・意向の把握に努めている。また、聴取した中から、本人が望むケアに近づける様に努めている	職員は日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりに関心を払い、職員が気づいた時などを「気づきノート」や「連絡帳」に記録し、それらをもとに把握に努めています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し生活歴等、本人・家族から情報収集を行い、把握に努めている				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者様に担当職員を決め、担当の職員がアセスメントし総合的に把握できるように努めている。また、その情報は職員間で共有している				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様から聴取した話の中から、センター方式を活用し、それを基にアセスメントし担当者会議を開催する事で、ご本人・ご家族様の意見を反映し現状に即した介護計画を作成している	職員間で利用者の希望を汲み取れるよう話し合い、ホームの理念である「これからの人生を楽しく・・・」に基づき、介護計画は作成されています。日々のケアなど、具体的様子、実施結果、利用者の反応などは、生活シートに記入しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートに、日々の様子・ケアの実践結果を、記録している。また、日頃気付いた事やケア方法について、連絡帳や気づきノートに記入し、職員全員に周知出来る様に取り組んでいる。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や、過去の生活歴等を考慮し、行楽・外散歩等、職員の体制を整え、安全な見守りを確保する事で、楽しんで頂けるよう取り組んでいる。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院受診、お買い物、外食等の外出支援を、入居者様の心身状況や、家族の都合に合わせて行なえるよう、近隣商店に理解を求めている。				
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は原則入居者様とご家族様の希望重視としている。また、医療連携体制により、24時間体制で提携医療機関の医師より指示やアドバイスを頂いている。	運営法人の協力医療機関から、全利用者が月2回の往診と週1回の訪問看護が受けられています。医師のコメントや看護師のアドバイスなどは、連絡帳により職員間で共有し、日常的な健康管理が行われています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を行う事で、週1回、看護師の訪問があり、相談・助言を受ける事で健康管理の支援体制ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、医療機関との連絡を密にし、事前情報の提供や、入院中の連絡体制の確認等を行っている。また入院中においても、面会に伺い、入院中の状況を把握し、早期の退院へ向けての働きかけを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や終末期についての意思確認を行っている。また、重度化した時は、家族や医療機関との話し合いの場を設け、対応についての再確認を書面に記入し保存している。	重度化した場合や看取りに関する指針を作成し、サービスの実施と内容を利用開始前に説明しています。看取り対応については、医師と家族、ホームで、その都度話し合いを行い、「看取り介護についての同意書」を作成し、最大限の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備え、いつでも閲覧できるようにしている。また年2回、消防署による救急救命の講習会を開催、急変時の対応に備えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	消防署員に来所頂き、年2回昼間と夜間想定で避難訓練を行っている。その中で緊急連絡の方法や、避難の手順・消火器具の使用方の説明指導を頂いている。訓練終了後には消防署員から講評を頂き、不備な点については今後の改善策として取り入れている。	火災避難訓練は年2回消防署の協力の下、実施時期や出火元を変えたり、夜間を想定したりして、実施しています。また近隣にある同一法人の他施設とは、自動火災通報装置を整備し、非常災害時における連携体制を構築しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や言葉使いに気をつけ、本人のプライバシーに配慮している。	管理者は、日々の接遇場面での言葉かけなどについて、チェック表や評価表などを用い、プライバシーや誇りを損ねないように努めています。また個人記録などは事務室に保管されております。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態に応じ、選択しやすい質問を心掛け、自己決定が出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大枠でのスケジュールはあるが、原則本人のペースを尊重という考えのもと、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の化粧品を使用してもらい、主に外出時に化粧をしている。衣服は自己選択が可能な入居者様には、本人に選択して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の病状や嗜好に合わせた物が提供出来る様取り組んでいる。また、食器拭き等、食に関わる作業にも関与して頂き、食への関心を向上出来る様、支援している。	外部委託した食材配送システムとなっておりますが、職員が献立をアレンジするなど、利用者の希望に沿った対応をしています。また家族からのおすそ分けの食材や行事食等も取り入れ、食事が楽しみになるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる力に応じ、食形態を考慮し、刻み食やミキサー食等を提供している。水分量は、1日の適量を摂取できる様提供し、好みの物を用意する事で水分量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行ない、出来る部分は本人が行い、磨き残し等は、介助している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、薬の調整も含め、失敗やおムツ使用量の減少を心掛けている。	一人ひとりの生活習慣と生活シートでの排泄状況を確認しながら、トイレでの排泄に取り組んでいます。また下肢などに不安のある利用者にも、トイレでの排泄は無理と決めつけず、職員間で話し合いを行い、オムツはずしに向けた支援を試みようとしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、排便間隔・水分量のチェック、内服調整、運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を原則としながら、個々の入居者様の体調や希望に合わせて、支援している。また、現在は無いが、時間帯等の希望があれば、対応する準備をしている	基本的には週2回となっておりますが、利用者の希望を尊重し、寛げる雰囲気にも努めています。また利用者の体調によっては、二人介助するなど、恐怖心を取り除き、ゆったりと浴槽につかって頂けるよう、安全な入浴が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者様のペースで休息が出来る様に支援している。また、介助が必要な入居者様については、座位の時間や疲労度等を考慮し休息の援助をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を確認し、目的、用法、容量を理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴から、外出の好きな入居者様、買い物の好きな入居者様等、情報を把握し、それぞれにあった支援を行っている。また、日々の生活の中では、洗濯物量みや調理や掃除の手伝い等をして頂く事で本人の力を生かした手伝いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り入居者様の意向に沿って、本人が外へ行きたい時には、職員も一緒に同行する支援を行っている。 また、通院後に、ご家族様を交え外食や買い物の為に出かける支援も行っている。	利用者の希望に応じて、喫茶店やショッピングを楽しんだり、美容院へ行くなどの外出支援を行っています。季節や天候によっては、職員と二人で散歩を楽しむ利用者もいます。また系列施設から福祉車両を借り、家族の協力を得ながら、より個性の高い外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る入居者様については、ご家族の了解を得た上で管理している。また、自己管理が困難な入居者様についても買い物時に、支払いをして頂く等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望があった場合には、ホームの電話を使用して頂いている。また、手紙や贈り物を送る際の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度・湿度を毎日定時に測定し、記録しながら、気温・湿度に合わせて空調の調整を行っている。また、テレビが付けっぱなしにならないよう、配慮している。	ホーム内は足元に優しいラバーフローアを施し、1階は床暖房、2階はパネルヒーターで温度調節を行っています。日常的な健康管理の一環として、温度と湿度の管理には気を配り、加湿器を4台配備し、快適な空間となるよう工夫しています。リビングのソファやテーブルの配置などには、利用者同士の関係性にも配慮し、落ち着いて寛げるスペースを確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで寛げるよう、座る位置を配慮する支援を行っている。また、喫煙場所を事務所に設け、希望時にいつでも喫煙が出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居申し込み段階より、使用の意図を説明の上、家財家具や生活用品等、馴染みの物を用意して頂いている。	居室には、利用者が思い出のある家具などを持ち込み、また家族等の写真を飾り、その人らしく安心して暮らせるような工夫をしています。また生活スタイルに合わせて、持参したテレビや仏壇などは落下防止の安全対策にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアがバリアフリーになっている事や廊下、浴室、トイレに手すりを設置して安全に生活が出来る様に工夫している		